

中頓別町で災害に備える



小学校1日防災学校「中頓別ハザードマップを作ろう」の様子

今年は1月1日の能登半島地震、8月8日の日向灘地震と大きな地震発生し、多くの方が犠牲となりました。

また、地震だけでなく台風や線状降水帯の発生により記録的な大雨や突風被害、土砂災害、内水氾濫などの被害が全国各地で発生しています。

あらためて、中頓別町で災害が起きたときに私たちができること、日頃の災害への備えについてご紹介します。

近年日本で発生した災害

今年1月1日、石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する能登半島地震が発生し、多くの方が犠牲となりました。

8月8日には日向灘を震源とする最大震度6弱の地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報が発表されました。

地震以外にも、台風や線状降水帯の発生による大雨によって日本各地で洪水や浸水などの災害が発生しています。

北海道では、平成30年9月6

日に胆振地方東部を震源とする最大震度7の北海道胆振東部地震が発生しました。震源地周辺で広範囲に大規模な斜面崩壊が発生したほか、札幌市などで液状化現象が発生し、住宅や道路にも被害が出ました。また、道内全域で大規模な停電が発生しました。

今年7月23日から24日にかけて、道北を中心に記録的大雨となり、空知地方や上川地方で農地や農道が水につかる被害が起きました。

中頓別町で起きた災害

過去、中頓別町において大きな災害は起きていませんが、胆振東部地震の際には停電が発生しました。

停電が長く続いたことで通信基地局の非常用電源が尽き、携帯電話や固定電話が使用できない通信被害が発生しました。

町では、保健センターに避難所を開設し、食事の提供などを行いました。

北海道胆振東部地震時の 中頓別町の避難所

北海道胆振東部地震時、中頓別町では停電が2日続きました。

保健センターに避難所が開設され、自宅で過ごすことが不安な方が一夜を過ごしました。

保健センターのホールにテントが設営され、1家族につき1つのテントを使用しました。



防災担当課長からのお願い

地震などの自然災害はいつ起こるかわかりません。

そのために、普段から備えをすることで、被害は軽減できます。

いざというときの心構えや行動について、家族で話し合うことが大切です。

中頓別町災害ハザードマップの確認や、防災無線の電源や電池の確認をお願いいたします。



町内での災害対策訓練

中頓別町では、各学校や長寿園、厚生園などの施設で避難訓練を実施しているほか、防災無線により全国瞬時警報システム（Ｊアラート）を用いた全国二斉情報伝達試験を実施し、災害が起きたときの対応を日頃から訓練しています。

9月6日に北海道シェイクアウト2024が実施され、道内で約10万人が参加しました。

中頓別町でもこども園の園児が参加し、地震を知らせる放送が流れると園児は机の下に入り、頭を守りながら揺れが収まるまで静か

に待ちました。揺れが収まった後は、先生の指示に従い、頭を守りながらすみやかに玄関前に避難を行いました。

9月26日に中頓別小学校で1日防災学校が実施され、自衛隊や稚内開発建設部、稚内地方気象台、北海道危機対策推進幹、役場の防災担当、消防職員が防災に関する授業を行いました。児童は、災害が起きたときに身を守る方法を実際に体験し、自分たちにできることを学びました。

低学年の児童は、防災カルタで遊びながら、災害の種類や災害が

起きたときの行動について説明を受けました。また、新聞紙を使ったスリッパの作り方を学びました。

中学年の児童は、自分用のハザードマップを作成しました。通学路や自宅から避難所までの避難ルートを地図に線を引き、危険な場所がないかを大雨の場合と地震発生時ごとに確認しました。

高学年の児童は、避難所で実際に使用される段ボールベッドを自分たちで組み立てました。この時、2年前に防災の授業で学んだことを活かしてマットレスを膨らませていました。また、避難所で起こる

困りごとについての説明を聞き、災害が起きたときに自分たちができることを考えました。

役場の災害対策訓練

役場では、職員防災訓練を実施しています。

直近では今年3月に訓練を実施しており、中頓別町災害時職員初動マニュアルについての確認と地震災害を想定した机上訓練を実施しました。職員は災害時に自身が置かれている立場で何を行うべきか再確認しました。